

福岡県の主な農産物の生産状況

平成 30 年 9 月 14 日現在

(専技情報より抜粋)

◇普通期水稻（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど）◇

「夢つくし」の収穫は9月1日頃から開始しました。収穫最盛期は平年より2日程度早く、9月9～18日頃の見込みです。収量は平年並み、外観品質は登熟期間の高温でやや劣っています。7月からの高温、多日照の影響で出穂が早まり、収穫は平年に比べ1～3日早く、「元気つくし」は9月19日～29日頃、「ヒノヒカリ」は10月4～10日頃の見込みです。7～8月の高温の影響で出穂のバラツキが見られます。トビイロウンカの発生は少ないようです。一部、少雨により用水不足のほ場は、生育抑制等が発生しています。

熟期が「元気つくし」以降の品種は、間断かん水を実施し早期落水を避けましょう。収穫時期は出穂後の積算気温と黄褐色籾比率、籾水分を確認して決定し、刈り遅れないように留意しましょう。

◇大豆（フクユタカ）◇

開花期は8月下旬で平年並です。生育は、乾燥・少雨により抑制されていましたが、8月末の降雨で回復傾向です。早播ほど生育は良好で、7月半ば以降播は草丈が低いです。現在、莢伸長～粒肥大期です。一部、ハスモンヨトウの食害が多いほ場やカメムシ類の発生が見られます。今後も高温に経過すれば、ハスモンヨトウやカメムシ類の多発が懸念されます。また、雨が続いた場合、紫斑病が発生するおそれがあります。雑草の発生は、土壌水分が低かったことなどから少ない傾向ですが、帰化アサガオ類等は多い傾向です。

ハスモンヨトウとカメムシ類は、発生動向を把握して適期に対策を実施しましょう。また、紫斑病の対策を徹底し、雑草の発生が多いほ場では早めに抜き取りを行いましょう。

◇イチゴ苗◇

7月上旬の豪雨や7月中旬以降の高温の影響で、一部の苗では根傷みが発生し展葉も遅れましたが、全体としては平年並～やや充実不足(細め)の苗に仕上がりました。早期作型の花芽分化は比較的順調で、定植は中山間地域では9月上旬、平坦地域では9月中旬から順次開始します。一部で、炭疽病、ハダニ類、アブラムシ類、チョウ目害虫の発生がみられます。

花芽分化確認後の計画的な定植を徹底しましょう。また、炭疽病発生苗の除去、ハダニ類、アブラムシ類、チョウ目害虫などの対策を徹底しましょう。

◇イチジク◇

夏季の高温・多日照の影響で収穫はやや前進化しており、無加温ハウスでは終盤、露地ではピークを迎え、出荷も順調です。8月の果実品質は、やや小玉傾向ですが、糖度が高く食味は良好です。一部、高温による成熟異常、流通段階での傷みやカビが発生しました。

腐敗、カビ、裂果対策として、適期収穫、適正な選果、予冷等鮮度保持対策を図りましょう。また、ショウジョウバエの誘発を防ぐため過熟果や腐敗果は除去し、収穫が終了した施設栽培では、過乾燥による根傷みを防止するため灌水を徹底しましょう。

◇カキ◇

着果量は、7月以降の強日射による日焼け果多発により、昨年よりやや少ないですが、平年並みで推移しています。果実肥大は、7月以降の乾燥により平年よりやや悪く、着色は平年並みです。カメムシは7月中下旬から断続的に果樹園に飛来し、一部で被害がでています。「西村早生」は、平年並みの9月10日から出荷開始しました。

適宜かん水や除草を実施し、果実肥大を促進しましょう。また、カメムシは、誘殺状況に基づき、定期防除を徹底し、適期収穫に努めるとともに、軟熟果の混入防止のため選果を徹底しましょう。

◇施設キク◇

夏秋ギク品種「精の一世」・「フローラル優香」の8月中下旬出荷作型は、高温の影響で開花が抑制され、茎が太くなり規格外が増えました。彼岸出荷は、花芽分化時の高温の影響で奇形花が発生しました。クロゲハナアザミウマ、ハダニ類の発生が一部で見られますが、白さび病の発生は少ないです。12月出荷作型は、9月上旬から順次定植中です。

白さび病を本圃に持ち込まないよう親株への対策を徹底しましょう。また、夜蛾類の対策を徹底し、ウイルス伝染を防ぐため、親株ほ場もアザミウマ類の対策を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇

夏季出荷作型（6～9月）の出荷が続いています。出荷量は昨年並みで、単価は昨年よりやや高いです。秋出荷作型（10～11月出荷）の生育は、定植後の高温・多日照により発蕾が早く、出荷がやや早まる見込みです。また、夜蛾類の発生が多いです。

無駄芽や不要な側枝は早めにかぎとり、主枝の充実に努めましょう。また、斑点病、夜蛾類およびウイルス病を媒介するアザミウマ類やコナジラミ類の対策を徹底しましょう。

◇豚、鶏、肉用牛◇

8月の豚枝肉価格は、昨年並みで全国的な出荷頭数減の影響により高値となりました。鶏卵価格は猛暑の影響により生産量が減少し、前年より高値となりましたが、過

去5年平均の水準です。肉牛枝肉価格は出荷頭数が減少しており、和牛去勢、省令価格ともに前年同時期より上昇しました。

暑熱はやや緩和されてきたものの秋雨期で湿度が増すため、引き続き送風等の暑熱対策は継続すると共に、病気発生を予防するための農場衛生管理を徹底しましょう。